

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： かたち

活動 かたちの特徴

影絵をみて、何の動物なのかを考え、絵と影絵を合わせてみる

活動スケジュール

3歳児クラス

日にち	令和7年6月6日
時 間	30 分
参加人数	10 人

環境をデザインする

●準備した物

影絵カード、台紙

探究活動を実践する

●活動内容

動物の名前や特徴を話す

影絵を体験する

●子どもたちの様子

カードを見せると、迷うことなく、動物の名前を元気よくうれしそうに伝えていた。ゾウは鼻やしっぽ、ウサギは耳、キリンは首や足の長さなど、それぞれの動物の特徴をよくとらえて考えていた。言葉でうまく言えないときには、「形」「ここ」などと言いながら、身振り手振りを交えて一生懸命伝えていた。多くの子が絵本で見たことのある動物を思い出しながら、動物の体の細かい部分に注目し考えられた。影絵台紙で動物カードの置き方を迷っていた子もいたが、周りを気にせず慌てることなくじっくり考え、自分のペースで最後までやり遂げることができた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

講師の話を聞きながら楽しんで参加する。影絵のイラストである動物を見てなんの動物か積極的に答えて取り組んでいた。イラストカードと影絵の用紙に絵合わせをする際に、2つ目までは講師が動物を指定しその指示があってから行う。指示を聞いて取り組む児もいたが、簡単であることからどんどん進んで取り組んでしまう児もいた。活動に慣れてきたことで、毎回の挨拶も講師の指示1回で行動することができている児がほとんどであるが、講師の指示や周囲の動きのみでは理解できずにぼーっとする児もいた。保育者が個別に声を掛けると同じように行動することが出来ていたため、本児の様子に応じて個別の対応が必要と感じた。

講師より

子どもたちが動物の特徴をしっかりと捉え、自分の知っていることや経験をもとに考える力が育ってきていると感じた。絵本で見たイメージを思い出しながら、何の動物かを話す姿や身振り手振りを使った表現からは、自分の考えを伝えたいという意欲がうかがえた。影絵の絵合わせでは一人ひとりが自分のペースで取り組み、最後までやり遂げようとする、集中力や粘り強さを感じた。これからも、子どもたちの考えを言葉や表現として引き出せるよう、丁寧に関わっていきたい。

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： かたち

活動 仲間分け

色、形で仲間分けをする

環境をデザインする

●準備した物

カード、台紙

探究活動を実践する

●活動内容

色、形でわけてみる

並べて比べる

●子どもたちの様子

似ている色や形のカードを見せて違いを尋ねると、「こっちは四角が大きいけど、こっちは四角が小さい」などと、それぞれの特徴を比較しながら答えていた。仲間に分けて台紙に並べるのに、初めは消極的だった子も、空白の台紙を見て「エレベーターみたい」と興味をもち、次第に積極的に取り組むようになった。

「エレベーター」をめぐるやりとりを聞いた周囲の子どもたちにも、その考え方が広がり、最終的には、全員が時間内にきれいに表を完成させることができた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

話を聞き複数のカードの中から指定されたカードを見つけることが出来ていた。また、様々な色に各自3つずつ同じ形が用意されていた。初めにカードを自由に動かして遊ぶ際も、自然と同じ色、形を並べたり、分けて遊ぶ姿があり、種類分けする概念が出来ていたように思う。どの子も、理解し保育者の援助なく自分でやり進める事が出来ていた。色と形の種類分けは、どの児にとっても理解しやすく一人で進められる内容であった。その中でも不安な子は、その都度保育者に確認する児もいたが、答えを教えてほしいよりもあっているかの安心の為に一言ほしいようであった。自分で活動に取り組む時間が十分にあり、子どもたちの中でも達成感を感じられているように感じた。

講師より

色や形の違いに注目し、自分の言葉で特徴を捉えようとする姿から、仲間分けや比べる力が育っていることを感じた。自分達の考えから気づきが生まれ、やり取りを通じてクラス全体の理解や関わりが深まるという学び合いの姿も見られた。今後も、一人ひとりの気持ちや考えが広がっていくような関わりを大切にしていきたい。

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

活動 数の比較

数の比較をして「同じ」「多い」「少ない」など比較を表す言葉の意味を知る

環境をデザインする

●準備した物

タイル

探究活動を実践する

●活動内容

数の比べ方を考える

●子どもたちの様子

「赤と青、どちらが多いか、数えないで、どうやって調べる？」と問いかけると、「心の中で数える」といった発言があがった。「数えずにできるかな？」とさらに問いかけると、不思議そうな表情をしながら考える様子が見られたが、少しずつ、「その赤を上」「青を下にして」など、カードの置き方を工夫しようとする声が出始めた。カードを並べて比べることで、数を数えなくても、多い・少ない・同じが分かることに気づくことができた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

45分という長い時間だが、椅子に座って講師の先生の話を聞くことができていた。今日は、数や数え方を学ぶ。先生の問いにすぐに反応し、声を出して答えている子もいた。他の子も理解はしていて、答えに自信があると手を挙げて発表しようとしていた。

講師より

数えずに比べることに戸惑いもあったが、自分で考えたり、友だちのやりとりを聞いたりしながら、気づきを広げていく姿が印象的だった。カードの並べ方を工夫しながら数の違いを見つけていく姿からは、数への興味や考える楽しさが感じられ、最後まで関心を持ち続けているのもよくわかった。これからも、子どもたちが自分なりに考えたり試したりしながら、数に親しんでいけるような時間を大切にしていきたい。